□■ 支部報告 ■□

関東支部「秋の見学会」に参加して

恒例の関東支部「秋の見学会」が11月12日（金）20名の参加者を集め開催された．今年度は，海老名市にある神奈川県産業技術総合研究所，東陶機器（株）茅ヶ崎工場と熊沢酒造（株）であった．

雨混じりの天候の中，渋谷駅前に午前8時に集合し，バスは8時15分に出発した．1時間ほどで最初の見学先である神奈川県産業技術総合研究所に到着した．立派な建物のこの研究所は，平成7年に県内四つの工業系試験研究所を統合し設立したとのことで，地域産業活性化のための木目細かなバックアップを目指しているとの説明をうけた．見学では，金属・金属酸化物の超微粒子プロジェクトを中心に，電子工学部（磁気デバイス）や材料工学部（溶射）の実験室を見せて頂いた．超高真空装置，各種製膜装置やその評価装置など，最新の実験装置が多数設置されていた．これらの装置を用いれば，かなりの研究開発や技術支援が行えるように思われた．私なんかは一部装置について使用させて頂きたい気持ちになった．

次の見学先，東陶機器（株）茅ヶ崎工場においては，今話題のハイドロテクト（光触媒超親水性技術）開発関連施設と衛生陶器製造施設を見た．超親水性関連施設においては，光触媒の研究の推移と超親水性についての説明を受け，開発施設を見学した．車への塗装の実演，シートへの塗布実験装置，超親水性検査の現場を見た．超親水性という面白い現象を発見しこれを製品に仕上げていく楽しみは格別のものだろうと想像しながら見学させて頂いた．その後，衛生陶器の製造工程を見た．茅ヶ崎工場では，高級な陶器を作製しているとのことで，自動化するところはしているがそれ以外は手作りで，一品一品異なる製品をベルトコンベヤーに載せ製造していた．一見，ディズニーランドの“ピーターパン空の旅”のようであった．大型で複雑形状をもつ衛生陶器を，泥漿の乾燥による収縮や焼成による変形を考慮して，同じ大きさ・同じ形に仕上げる技術たるや想像を絶するものに思われた．見学は金曜日の午後であったため，土日の2日間に無人で焼き上げるための製品が，架台に3段4段と載せられ，大型焼成炉（全長120 m）に平行に整然と何列も並ぶ姿は壮観であった．一体ここにはどれほどの製造に関する蓄積やノウハウがあるのだろうか，これまでに製造に関わった人がどれほどの汗と涙を流したことだろうか，と思いながら見学させて頂いた．日本の製造業の素晴らしさを見た思いがした．

最後に訪問した熊沢酒造では，湘南地方唯一の酒造で，地ビールと日本酒の製造法についての説明を受けた．日本酒の発酵途中の香りは格別であった．帰りのバスの中では熊沢酒造の日本酒を味わい，JR五反田の駅まで帰ってきた．

今回の見学において，神奈川県総合研究所においても，東陶機器（株）茅ヶ崎工場においても，非常に丁寧に説明して頂き，また，色々な質問にも親切に答えて頂きました．見学のお世話をして頂いた方々に心よりお礼を申し上げます．私は今回初めての参加でしたが，有意義な一日でした．読者の皆様も次の見学会に参加されませんか．　（無機材質研究所　大谷茂樹）

東陶機器(株)　茅ヶ崎工場にて